

行くぜ！全日青！

早めの避難の重要性

災害対策担当委員長

今村隆正

近年、日本では地震や集中豪雨、台風などの自然災害が多発しています。さらに今年は新型コロナウイルスの流行により、被災地では避難方法やそれに伴う避難所の状況にさまざまな問題が生じました。

災害時には身を守ることが最優先となります。コロナへの感染を懸念して「ためらう」ことなく、

「早めに」行動できるよう日頃から備えることが重要です。

政府は災害発生時、安全な知人宅や親戚宅などの避難先を想定しておくよう、各自治体を通じて呼びかけています。従来であれば、各自治体が設定した避難所への避難を想定することでよかったのですが、「密」を避けねばならぬコロナ禍の今、避難所以外への



平成30年7月豪雨で復旧活動をする今村師匠

大切な人を守る最善の選択のために

分散避難を検討し、感染リスクを減らすことも求められているのです。

避難所以外の避難先ですが、心身ともに身近な場所にするのが、精神・身体ケアにとっても重要です。

例えば、自宅などで安全を確保できない場合は、上階を用いた在宅避難の検討も有効です。そのためには、事前に洪水や土砂災害、津波のハザードマップを確認し、自宅や知人宅、親戚宅の危険度の把握が必要です。

現在、避難所では換気や消毒を行うなど、「3密」対策が講じられています。新型コロナウイルスに限らず、他の感染症についても「密」を避け、手洗い、うがい、マスクの着用などを心掛けています。基本

的な感染対策で、感染リスクは確実に減らせます。災害時に必要な備蓄品の用意はもちろんのこと、

日頃から災害に関する情報や知識を収集して心構えをすることも重要です。

これまで多くの被災地に赴かせていただき、支援活動をするなかで、「もしもいれば」という言葉を幾度も耳にしました。天災は誰もが被災する可能性があります。こちらの都合を待ってはくれません。「自身や大切な人を守る」という最善の選択をするために、必要なことは何なのか。早急に、しっかりと見直していただく時なのです。

■今村隆正 東京都市日蓮宗青年会、江戸川区妙光寺住職。昭和63年生まれ